石川一雄さんは無実だ！無罪判決を行え！

1. 狭山事件とは

1963（昭和 38）年 5 月 1 日、埼玉県狭山市で 16 歳の女子高生が行方不明となり、身代金を要求する脅迫状が届きました。警察は身代金を取りにきた犯人を取り逃がし、女子高生は遺体で発見されました。

5 月 23 日、被差別部落の青年、石川一雄さんが逮捕されました。厳しい取り調べが続きましたが、石川さんは 1 か月近く犯行を否認します。しかし、「お前が犯行を認めないなら、お前の兄さんを逮捕する。犯行を認めれば 10 年で出してやる」という脅しと騙しによって、嘘の自白をしてしまいます。（兄にはアリバイがありましたが、警察は隠していました）

第 1 審の浦和地裁は死刑。2 審の東京高裁冒頭で、「俺は殺していない」と叫び、無罪を求める長い闘いが始まりました。東京高裁では無期懲役。最高裁は上告棄却。約 32 年を刑務所で過ごしました。56 歳で仮釈放され、無実を訴え、全国を飛び回っています。現在第 3 次再審請求中です。

2. なぜ、石川さんは犯人にされたのか？

狭山事件の 1 か月前に同じく誘拐殺害事件の吉展ちゃん事件が起きたばかりだったので、あせった警察は威信回復のために何が何でも犯人を捕まえようとやっきになっていました。

被害者に抵抗した形跡がないことから、「顔見知り犯」説もありました。しかし、「顔見知り」の線を捨て、捜査は被差別部落へ集中していきました。なぜそうなったかと言えば、「こんな犯罪をするのは被差別部落の人たちだ」という差別意識が、地域住民にも、警察にもマスコミにもあったからです。

被差別部落の青年たちの血液型、アリバイ、筆跡などが片っ端から調べられました。その中で血液型が「一致」し、当日仕事を休んで、アリバイ証明が困難であった石川一雄さんが犯人として逮捕されました。警察が筆跡依頼したその日のうちに県警鑑識は「類似している」という中間回答を出し、それを根拠に逮捕状が出ました。でも女子高生殺しで逮捕できず、別件逮捕でした。

マスコミは「石川が犯人」という世論を作り、裁判所は真実を見ようとせず、石川さんが犯人にされたのです。

3. 万年筆はにせものだ

「自白」では、石川さんは被害者の万年筆を奪い、石川さんの自宅鴨居に隠したとされています。

被害者の万年筆に入っていたのは青インク（ジェットスター）鴨居から発見された万年筆に入っていたのは黒インク。被害者は当日朝までずっと青インクで日記を書いていた。当日午前中のペン習字授業の清書も青インクでした。

発見された万年筆に黒インクが入っていた理由として、裁判官は「黒インクを補充した可能性がある」と主張しました。

＜下山第 1 鑑定＞は

「青インクがなくなってから黒インクを補充しても青インクの痕跡が残る。その痕跡がないのは、一度も青インクを入れたことがないことを示す」と補充説を否定しました。

＜下山第 2 鑑定＞<u>蛍光 X 線分析により補充がないことを証明</u>

「被害者の万年筆インクからはクロム元素を検出。
発見万年筆インクからはクロム元素でなく鉄元素を検出。
一度でもクロム元素入りインクが入れられていれば、痕跡が残る。その痕跡がないのは、青インクを入れたことがないことの証拠」⇒発見万年筆は一度も青インクが使われていない
⇒被害者の万年筆ではない＝発見万年筆は**にせもの**

4. 万年筆は警察がでっち上げた

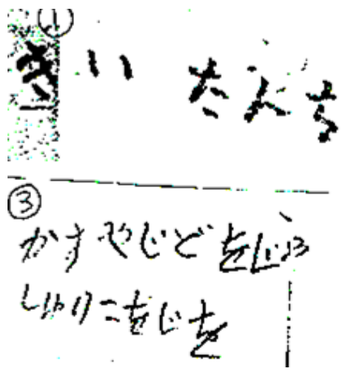
鴨居までの高さは 175.9cm。2 回の家宅捜索では、のべ 20 名のベテラン刑事が 4 時間以上かけて徹底的に調べました。脚立に乗って調べた写真が残っています。それでも万年筆を見つけられませんでした。しかし、3 回目の家宅捜査であっさり見つかります。1・2 回目の捜査に参加した刑事は、「鴨居は探した場所だ、万年筆はなかった、そこから見つかったことは信じられない」と弁護団に証言しています。（裁判の中では証言していません）

また、原・厳島教授は、狭山事件を知らない捜査の素人の大学生に万年筆を探す心理学実験を行いました。すると、12 名全員が 30 分以内に鴨居の上の万年筆を発見しました。

このことから言えることは、プロのベテラン刑事が徹底的に探して見つからなかったのは、万年筆がなかったことしか考えられません。それが見つかったのは、警察がにせの万年筆を置いたからです。

5. 石川さんは脅迫状を書けなかった一犯人ではない

石川さんは1年生の読み書きも十分でない非識字者でした。当時の石川さんの文字、読めますか？開示された録音テープによって、文字の書けない石川さんに警察が書き方を教えていたことが分かりました。それでも正確に書けていません。

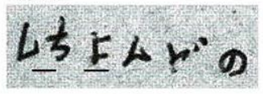


① きいたうち

③ かすやじどうしゃしゅうりこうじょう

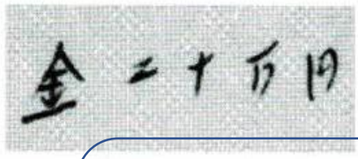
（20万円）

〈拗音が正しく書けていない〉
ようおん



（署長殿）
しょちょうどの

発見万年筆から石川さんの指紋も被害者の指紋も出てきません。脅迫状からも石川さんの指紋は出ていません。



←脅迫状
（犯人の字）

真犯人が書いた脅迫状と石川さんが書いた文字の筆跡は見るからに違います。コンピュータによる分析でも 99.9%別人という結果が出ました。
＜福江鑑定＞